

# 泉佐野市の「食」に関する現状

## 「食育」の理解と実践

- ・「食育」という言葉の意味を知っている人や「食育」への関心が高い人は、多い傾向があります。
- ・小中学生の7割が「食べる事」の勉強が大切だと思っています。
- ・朝食を食べている人の割合は、小学生・大人に比べて、中学生は低くなっています。
- ・健康づくりのための正しい知識は、広い年齢層に様々な機会や場所を利用し啓発していく必要があります。

## 「食」を通じた交流

- ・家族等と一緒に食事をしている人は9割以上いますが、食事の時によく話をしている人は約7割と低くなっています。
- ・「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする小中学生は約7割となっています。
- ・「共食」など「食」を通じた交流は、豊かな人づくりにつながります。

## 地産地消

- ・約8割以上の人が「地産地消」の考え方を知っています。
- ・農業、漁業の体験率は高く、「食育」を進めるうえで体験が必要と思う人も多くなっています。
- ・「地産地消」を進めていくために、「旬産旬消」の取り組みや地元の農水産物についてわかりやすい情報提供を行うことが重要です。

## 基本理念 おいしくたのしく「食」でつながるいずみさの

### 基本目標1 「食育」から自分づくり

望ましい食生活を身につけよう。  
望ましい食事の選択が出来るようにしよう。  
歯と口の健康を保とう。

### 基本目標2 「食育」を通じて人づくり

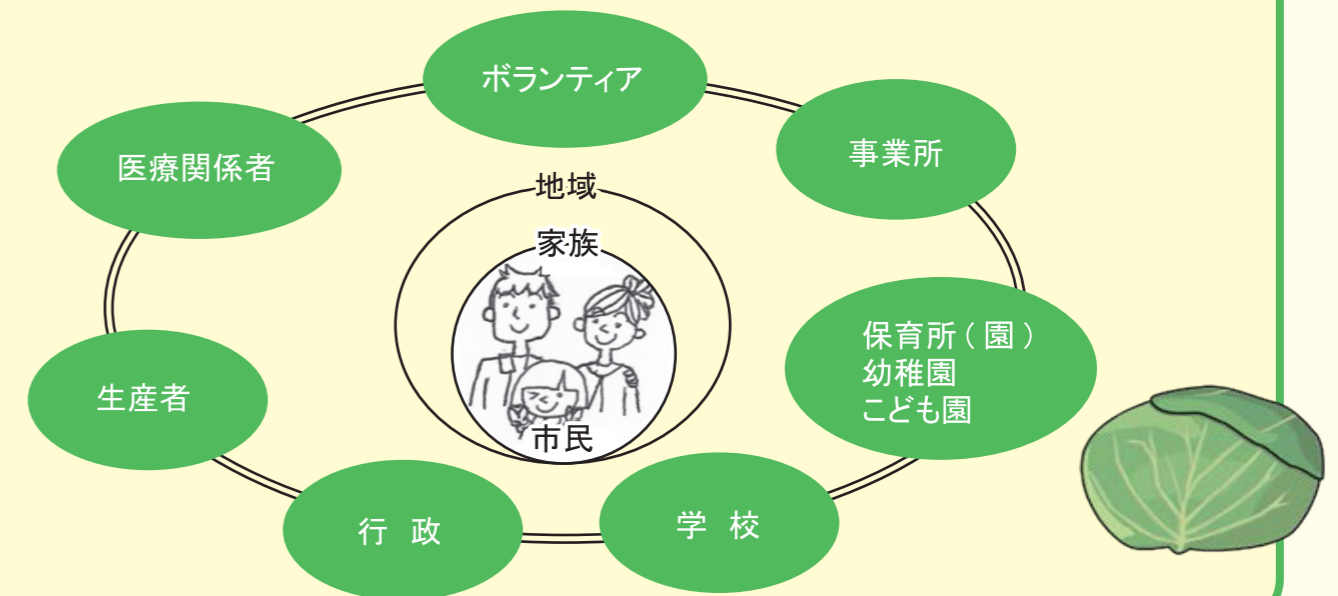
「食」を通じてコミュニケーションを図ろう。  
「食」に関する情報をわかりやすく伝えよう。  
「食」に感謝する心を育てよう。

### 基本目標3 「食育」でつながる地域づくり

地域に根ざした食文化を伝えよう。  
地元の農産物・水産物を食べよう。  
「食」を通じた仲間づくりをすすめよう。



## 「食育」のネットワーク



## 計画の目標値

「食育」という言葉やその意味を知っている市民の割合	71.5%⇒80.0%
食べることの勉強が大切だと思う小中学生の割合	73.5%⇒80.0%
「食事バランスガイド」を見たことがある市民の割合	69.5%⇒80.0%
朝食を毎日食べる人の割合	市民 88.0%⇒90.0%
	小中学生 87.7%⇒95.0%
「メタボリックシンドローム」とは何かを知っている市民の割合	82.6%⇒90.0%
家族等と一緒に食事をしている市民の割合	94.1%⇒95.0%
「地産地消」を知っている市民の割合	83.1%⇒85.0%
地域の特産品を知っている市民の割合	水なす 97.4%⇒98.0%
	松波キャベツ 45.4%⇒60.0%
	泉だこ 68.1%⇒70.0%

